

是彼員会

年末の上海3日間の見聞

日野正子（会員）

昨年、まもなく年末という頃に3日間上海見物の機会に恵まれた。以前、台湾のメーカーとの間のビジネスレターの翻訳（機械部品の不具合など）でお世話になった、T社の高橋社長にお伴した。T社は2011年11月に上海に事業所を設け、一昨年に続いて去年も親会社への配当が確定となり、安定的な成長期に入ったので、当時お世話になった上海大学のC教授への報告を兼ねての上海行きだった。

虹橋空港からそのまま長寧区税務局に寄り、ホテル虹橋錦江大酒店へ。そこから徒歩で事業所のT公司に向かった。総経理は日本人で2代目、中国人スタッフが4人。総経理からT公司の概要の説明を受け、業務が済むのを待って忘年会に参加させていただいた。中国人スタッフはみな標準的な日本語を巧みに話し、驚いたのは、すでにマンションを2つ持っていたり、成人を迎える息子へのプレゼントが十数万円のスマホだったり、また割り勘の場合の支払いは互いにスマホでという「現実」であった。T公司の設立手続きを担った同行の海外事業部の文氏は大連出身で、時に駄洒落も飛ばすなど日本語の達人である。当協会の講演会にも時々参加され、T公司でもやはり人材の確保と定着が大きな課題だという。

翌日午前中、人民広場にある「上海都市計画展示館」を見学した。東京でいえば江戸東京博物館に当たる。上海市中心区域の立体大型模型と、外灘から出て浦東地区を陸上から空中へと滑走し、黄浦江を戻って夜の花火で終わるコースで全方位の景色を見せるバーチャル空間の仕掛けが新鮮だった。昼食はかねて聞いていたレトロな雰囲気を残す老錦江飯店北楼の「老夜上海」にお願いした。メニューには「没食」も多かったが、もちろん大変美味しかった。VISAカードが使えず皺の寄ったお札で払った。午後、上海大学科技楼にC教授を訪ねた。C教授はオートメーションの専門家、大学発ベンチャー企業としてすでに南京に9千ムーという広大な面積の農業実験事業が行中だという。超多忙な方で、南京の事業の総務課長のS女史が先に到着し、少し遅れて到着したC教授からプロジェクトで写真を交えて説明を受けた。続いて夜の会食に招かれ、5人で歓談した。S女史は有能で優美で華奢な上海女性だ。子どもを聞かれて「息子が生まれた月に毛沢東が亡くなっている」と答えると、「私の兄もそうだった」とのこと。ちょうど親子の年の差だった。私は、つい最近まで「三農問題」を論じていた中国

が、労働力不足ゆえオートメーション化、というのは次元があまりにかけ離れている気がして、S女史に尋ねると、農業従事者は高齢化で急減し、その子どもたちは農業を継がないので労働力不足になるという答えだった。C教授は複数の農家が共同して経営規模を大きくしても管理や技術の向上なしには生産性が下がる場合さえあり、指導が必要だと具体例を挙げた。来年、日本の農業ワールド2018には行きたいとのこと、再会を約してお別れした。翌日は、午前中空港に行くまでの時間、車で市内を走り、中国共産党第1回全国代表大会が開かれた石庫門建築と第2回会議の場所を見学し、宋慶齡故居と宋家墓地などを回った。「紅色旅游」ということで、前二か所は無料、故居ではパスポートの提示を求められ、シルバーということで半額になった。15年ぶりに上海を訪れ、ビジネスの厳しさの一端をのぞくことができ、旧知の方々への尊敬の念が増した旅だった。